

＋ 方 針

文学研究科の基本方針

神戸松蔭女子学院大学大学院は、聖公会キリスト教主義に基づく人格形成を根本方針とし、文化の創造的発展と人類の福祉に寄与する人材を育成することを目的としている。本大学院は、この大きな目的のもとに次の基本方針を設定する。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

神戸松蔭女子学院大学大学院は、所定の年限以上在籍し、各専攻の授業を履修して必要な単位数を修得し、学位論文を提出してその審査および試験に合格した上で、次の要件を満たす者に学位を授与する。

1. 知識・理解

- ・各専攻分野において、各自の研究対象を体系的かつ多角的に理解して高度な専門的知識に到達していることを妥当な論理性をもって表現できている。
- ・自らの分野の専門性を深めるだけでなく、その研究分野が世界の中でどのような意味を持ち、どのような位置づけができるかを理解し、説明できる。

2. 汎用的技能

- ・自らの研究分野だけでなく、他の研究分野、さらに一般社会においても有用な研究上の技能を身につけている。
- ・自らの知見を、内容が論理的に妥当であるだけでなく、各専攻分野で認められている形式に則って表現し、その分野の専門家以外の人にも理解できる文章で伝えることができるコミュニケーション能力を身につけている。

3. 態度・志向性

- ・学位の取得にとどまらず、一生涯を通して自らにとって新しい知識や知見を求めつづける態度を持っている。
- ・自らの研究成果が世界の健全な発展に寄与できる可能性を常に意識している。

4. 研究倫理

- ・人を対象とする研究分野においては、人権・人格を何よりも尊重し、関係する法令を十分に理解し、これを遵守する。
- ・研究倫理を深く理解し、データの取り扱い、個人情報の保護、文献や資料の引用、研究成果の発表の仕方などにおいて研究倫理に反することがないよう、日常的に意識を持つ。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

神戸松蔭女子学院大学大学院は、次のような方針で教育課程を編成し、実施する。

1. 教育課程編成の方針

- ・専門的な学術理論および応用を研究教授し、深い学識と高い研究能力・実践力を養成するカリキュラムを編成する。
- ・各専攻分野において、基礎的な知識・概念から高度に専門的な研究に導く体系的なカリキュラムを編成する。

2. 教育課程実施の方針

- ・年度ごとに研究指導計画を示し、各専攻の指導方針を具体的に説明し、学位論文にいたるスケジュールを提示する。
- ・各専攻分野において個人指導を重視し、授業以外の場においても積極的に指導を行い、また各専攻のすべての教員が学生一人ひとりの関心をもつ研究分野と進捗を把握する。
- ・学生が設定する自らの研究計画・到達目標と、その達成の自己評価を指導に活用する。

3. 基礎的技能

- ・各専攻分野で研究および成果の発表を行っていく上で必要な研究環境を整備し、それを使いこなす基礎的な技能を指導する。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

神戸松蔭女子学院大学大学院は、次のような人が入学を志望することを期待する。

1. 知識・技能

- ・各専攻の教育研究の目的を理解し、専門分野の研究を遂行するのに適した知識・学力の基礎を有し、さらに深い学識と高い研究能力・実践力を養う意欲を持つ人。

2. 思考力・判断力・表現力

- ・各専攻分野において自ら問題点と課題を発見し、先行研究を含む多角的な観点からの判断力をもって解決にあたり、自らの知見を妥当な論理性をもって積極的に発表する表現力を持つ人。

3. 態度・志向性

- ・研究の世界には多様な考え方があることを認識し、自分にとって未知の概念や思考法を学び吸収することに積極的な姿勢を持つ人。
- ・自分が専攻しようとしている研究分野が人間の世界の中でどのような意味を持ち、どのように位置づけられるかを意識する、広い視野を持つ人。

英語学専攻の三方針

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

学生は所定の年限以上在籍し、英語学専攻のカリキュラムポリシーにもとづいて設定された授業科目を履修して所定の単位を修得した上で、指導教員との緊密な連携のもとに修士論文を提出し、その審査および試験に合格することが修士の学位を取得する条件である。

また、英語学専攻では、学生が英語学の複数の研究分野に習熟できるよう、修士論文で取り組んだものと異なる分野について副課題の提出を求めている。

修士の学位を取得するにあたって、次の要件を満たしていることを求める。

1. 知識・理解

- ・英語教育を中心とする言語の研究の、音声・文法・意味・言語変異・異文化理解に関連する複数の研究分野について体系的な知識と理解を持っている。
- ・先行研究を正確に理解した上で、研究の進歩に貢献する独創的な知見を表現できる。

2. 汎用的技能

- ・自分の考え、思考を的確に表現できる英語能力を身につける。
- ・知識・情報の収集、思考の表現と発信にコンピュータを活用できる。

3. 態度・志向性

- ・大学院で得た新しい考え方、知識を吸収し、自分の研究に生かしている。
- ・ひとつの問題に対し、多角的な観点から検討し、専門的な深い理解を持っている。
- ・論理的に妥当な思考が表現できる。

4. 研究倫理

- ・研究倫理を深く理解し、データの取り扱い、個人情報の保護、文献や資料の引用、研究成果の発表の仕方などにおいて研究倫理に反することがないよう、日常的に意識を持つ。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

英語学専攻は、次のような方針でカリキュラムを編成し、実施する。

1. 教育課程編成の方針

- ・英語教育に関わる、音声・文法・意味・言語変異・異文化理解に関連する諸分野について基礎から特殊研究まで体系的な学習と研究を可能にする。
- ・学生は英語学で行われている研究について、分野に偏りの生じることがないように、広い知見を得る。

2. 教育課程実施の方針

- ・各研究分野で個人指導を重視し、担当教員全員が各学生の研究・学習内容を把握する。

3. 基礎的技能

- ・研究を行う上での基礎を重視し、語学力、コンピュータ運用能力を高める授業を提供する。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

英語学専攻は、次のような人材が入学を志望することを期待する。

1. 言語への関心・知識・技能

- ・英語をはじめ、語学力の向上に意欲を持ち、専門分野の研究を遂行するのに適した基礎学力を有している人。
- ・英語をはじめ、言語の性質や働き、外国語の教育や子どもの言語習得に関心を持っている人。

2. 思考力・判断力・表現力

- ・英語学専攻の分野において、自ら問題点と課題を発見し、先行研究を様々な観点から判断し解決に取り組む人。
- ・異文化間のコミュニケーション、相互理解を含み、国際的な場面で自分の考えを表現することに意欲と関心を持つ人。

3. 態度・志向性

- ・研究分野における多様な考えの存在を認識し、その積極的な摂取に貪欲でありつつ、研究者・教育者としての社会的責任に自覚的であるような人。
- ・英語学専攻で学ぶことが社会の中でどのような意味を持ち、どのように位置づけられるかを意識し、英語という言語に対し好奇心を持ち続けることができ、ねばり強く取り組むことができる人。

国語国文学専攻の三方針

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

国語国文学専攻は、修士の学位を取得するにあたって、次の要件を満たすことを求める。

1. 知識・理解
 - ・日本語学、日本文学の両分野において、十分な知識を有し、体系的な理解力を身に付ける。
 - ・日本語学もしくは日本文学の分野において、高度で専門的な知識を獲得し、国際化の時代に即応した研究を進めることができる。
2. 汎用的技能
 - ・諸課題を解決し、他者とのコミュニケーションを図る過程で、説得性のある論理的な文章を構成する力を身に付ける。
 - ・自ら設定した課題について、先行研究を的確に把握した上で独創的な知見を示すことができる。
3. 態度・志向性
 - ・自らの思考、認識を的確に把握し、それを専門的な研究に生かす積極性を保持する。
 - ・高度な専門知識を備えた人材として、粘り強く学術的成果を社会へ発信する。
4. 研究倫理
 - ・人を対象とする研究分野においては、人権・人格を何よりも尊重し、関係する法令を十分に理解し、これを遵守する。
 - ・研究倫理を深く理解し、データの取り扱い、個人情報保護、文献や資料の引用、研究成果の発表の仕方などにおいて研究倫理に反することがないよう、日常的に意識を持つ。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

国語国文学専攻は、次のような方針でカリキュラムを編成し、実施する。

1. 教育課程編成の方針
 - ・日本語学および日本文学の2系統の授業を提供し、高度で専門的な学術的研究を可能にする。
 - ・日本語学系統においては、古代から近代、現代までの日本語を対象とし、幅広く、音韻、文法、語彙、敬意表現、言語生活などの諸分野の研究をなす。他言語との比較研究も視野に入れ、日本語教育も対象とする。
 - ・日本文学系統においては、古代（上代・中古・中世）から近代（近世・近代・現代）の散文と韻文、戯曲を対象とし、幅広く関連する時代分野を積極的に学ぶ。歴史や芸術、諸外国の文学なども視野に入れ、多角的な研究をなす。
2. 教育課程実施の方針
 - ・各専門分野で個人指導をなすとともに、全教員による集団指導を行い、修士論文の中間発表や最終試問を実施する。
3. 基礎的技能
 - ・研究および成果の発表を行っていく上で必要な研究環境を整備し、それを使いこなす基礎的な技術を指導する。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

国語国文学専攻は、次のような人が入学志望することを期待する。

1. 知識・技能
 - ・国語国文学専攻の教育研究の目的を理解し、日本文学・日本語学の研究を遂行するのに適した基礎学力を有している人。
 - ・高度な学識と専門分野での研究能力・実践力を養う強い探究心と学修意欲を有している人。
2. 思考力・判断力・表現力
 - ・広い視野に立ち、自ら問題点と課題を発見し、先行研究を含む多角的な観点からの判断力を持って解決にあたる人。
 - ・自らの知見を創造的な思考と妥当な論理性を持って積極的に発表する表現力を持つ人。
3. 態度・志向性
 - ・広い視野を持って学び吸収することに不断の努力を惜しまない積極的な姿勢を持ち、研究者、教育者として社会に貢献することを目指している人。
 - ・国語国文学専攻で学ぶことが社会の中でどのような意味を持ち、どのように位置づけられるかを意識し、世界に向けて日本語、日本文学、日本文化を発信しようとする意欲のある人。

心理学専攻の三方針

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

心理学専攻では、所定の単位を修得し、修士論文審査および試問に合格し、次の能力を身につけたと判断された者に対して、修士（心理学）の学位を授与する。

臨床心理学コース

1. 知識・理解
 - ・臨床心理学および心理学全般に関する体系的な知識を修得している。
 - ・体系的な臨床心理学的知識に基づき、具体的な心理的問題を理解することができる。
2. 汎用的技能
 - ・心理的問題に関して適切な手法を用いて心理査定や調査研究を行うことができる。
 - ・心理査定に基づき具体的な心理臨床的援助を行うことができる。
3. 態度・志向性
 - ・心理臨床の専門家としての高い倫理性をもって対人援助に関わることができる。
 - ・自らの専門性に基づき他職種との間で必要な協力関係を築くことができる。
4. 研究倫理
 - ・人を対象とする研究分野であることを常に自覚し、人権・人格を何よりも尊重し、関係する法令を十分に理解し、これを遵守する。
 - ・研究倫理を深く理解し、データの取り扱い、臨床場面における個人情報、文献や資料の引用、研究成果の発表の仕方などにおいて研究倫理に反することがないよう、日常的に意識を持つ。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

心理学専攻は、次のような方針でカリキュラムを編成し、実施する。

臨床心理学コース

1. 教育課程編成の方針
 - ・臨床心理士ならびに公認心理師を養成するためのコースであり、心理臨床の専門家として、臨床心理査定、臨床心理面接、臨床心理的地域援助、およびこれらに関する調査・研究を遂行し得る知識や技能、および高い倫理性を養うことを目指す。
 - ・講義科目、演習科目、実習科目に加えて、修士論文作成のための個別指導を受ける科目を設定する。実習には、大学附属の相談機関（神戸松蔭こころのケア・センター）において来談者に対して心理臨床的援助を提供することや、学外における協力施設での実習などが含まれる。
2. 教育課程実施の方針
 - ・年度ごとに学修指導および臨床訓練に関するガイドラインを具体的に説明し、修士論文の提出にいたるスケジュールを提示する。
 - ・各専門分野で修士論文作成のための個別指導を行うとともに、修士論文の中間発表や最終試問を実施する。
3. 基礎的技能
 - ・学内外の実習を通して、心理臨床的援助を行うための専門的知識と技能、多職種との協働性、および高い倫理性を身につけることができるよう指導する。
 - ・各専門分野で研究および成果の発表を行っていく上で必要な環境を整備し、研究倫理を遵守しつつ適切な手法を用いて研究を遂行できる能力を養う。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

心理学専攻は、次のような人が入学を志望することを期待する。

臨床心理学コース

1. 知識・技能
 - ・専門課程における学習や訓練を遂行するための臨床心理学の基礎的な知識、学力を有し、心理臨床の専門家および研究者として必要な深い学識と高い研究能力・実践力を養う意欲を持つ人。
2. 思考力・判断力・表現力
 - ・心理臨床の専門家および研究者としての視点から、自ら問題点と課題を発見し、先行研究を含む多角的な観点からの判断力をもって解決にあたる人。
 - ・自らの知見を妥当な論理性をもって積極的に発表する表現力を持つ人。
3. 態度・志向性
 - ・対人援助において不可欠である倫理観を備え、心理臨床の専門家として他職種と協働できる社会性を有する人。
 - ・心理臨床の専門家および研究者として社会に貢献するという強い目的意識を持つ人。

言語科学専攻の三方針

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

学生は所定の年限以上在籍し、言語科学専攻のカリキュラムポリシーにもとづいて設定された授業科目を履修して8単位以上を修得した上で、指導教員との緊密な連携のもとに博士論文を提出し、その審査および試験に合格することが博士の学位を取得する条件である。

博士の学位を取得するにあたって、次の要件を満たしていることを求める。

1. 知識・理解

- ・言語の研究の、音声・文法・意味・言語変異・言語教育に関連する複数の研究分野について体系的で専門的な知識と理解を持っている。
- ・先行研究を正確に理解した上で、研究の進歩に貢献する独創的な研究方法と知見を持ち、それを適切に表現できる。

2. 汎用的技能

- ・自分の考え、思考を的確に表現できる高度な英語能力を身につける。
- ・知識・情報の収集、思考の表現と発信にコンピュータの高度な技能を活用できる。

3. 態度・志向性

- ・自分の研究分野における多様な研究方法、知見をもれなく熟知し、吸収する。
- ・自分の研究テーマについての主張の論理的妥当性を明快に提示できる。

4. 研究倫理

- ・研究倫理を深く理解し、データの取り扱い、個人情報の保護、文献や資料の引用、研究成果の発表の仕方などにおいて研究倫理に反することがないよう、日常的に意識を持つ。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

言語科学専攻は、次のような方針でカリキュラムを編成し、実施する。

1. 体系性

- ・言語の音声・文法・意味・言語変異・言語教育およびそれらの関連領域について体系的な研究を可能にする。
- ・学生は言語科学で行われている研究について、分野に偏りが生じることがないように、広い知見を得る。

2. 個人指導

- ・各研究分野で個人指導を重視し、担当教員全員が各学生の研究内容を把握する。

3. 高度な基礎能力

- ・研究を行う上での基礎を重視し、語学、コンピュータ運用の高度な技能を持つよう指導を行う。

入学受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

言語科学専攻は、次のような人が入学を志望することを期待している。

1. 言語と言語科学への関心

- ・言語の性質やはたらきを科学的に研究することに関心がある人。言語間の相違点、普遍性に関心がある人。
- ・言語研究の教育や情報科学などへの応用に関心のある人。

2. 態度

- ・自分にとって新しい考え方や知識を得ることに積極的な人。
- ・複数の角度と視点から問題解決に取り組むことができる人。

3. 国際性

- ・国際的な場面で、自分の研究成果を発表することに意欲と関心を持っている人。

4. 情報能力

- ・コンピュータ、インターネットの研究への活用に関心と意欲を持っている人。